

◇ 国 語

国 3-1～国 3-17 まで 17 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一週間ばかり前のひるすぎ、麻川氏と私の話は「女性美」というような方へ触れて行った。麻川氏「女の本当の美人なんでものは、男と同じように仲々すくないですね。しかし、男が、ふと或る女を想いつめ、その女にいろいな空想や希望を積み重ねて行くとその女がゼッセイAの美人に見えるようになって来ますね。そして、そのトウスイBを醒さしたくないと思えますね。二その方が男にとって幸福ですからね。女から紅べにや、白粉おしろいを拭い取って、素顔を見るなんか私にはとても出来ない事です。だが、それだつて好いじゃないですか、それだつて」氏の言葉の調子は、いくらかずつ私をきめつけてかかる。私は「そうですとも」と相槌あいづちを打った。すると麻川氏は「ほんとうにそう、思うんですか」とますます私を極め付ける。私「ええ」麻川氏「本当に……じゃあ何故なぜあなたは……何故……」「何ですか」と私。

麻川氏は、それきり口をつぐんで仕舞った。眼が薄ぐもりの河の底のように光り、口辺くちべに皮肉な微笑が浮んだ。やがて氏は眼を斜視にして藤棚の一方を見詰めて居たが突然立ち上り手を延ばして藤の葉を二三枚むしり取り、元の処へ坐った。が、
ア いくらか氣息を呑み、「僕が、そういう意味でですね、僕がある女を美人と認めるとしても異議無しの筈はずですがねあなたは」私「ある女つて誰ですか」私も咄嗟とつさの場合、詰きつとなった。麻川氏は必死な狡ささずで「ふふふふ」と笑った。ふと、私はX夫人の事を思いついた。そして、巧な化粧で変貌したX夫人を先年某料亭で見て変貌以前を知って居る私が眼前のX夫人の美に見惚ほれ乍なら麻川氏と一緒に単純に讃嘆出来なかつた事、その気持ちでその時の麻川氏を批判した随筆を或る雑誌に絶対に氏やX夫人の名前を明記しないで書いたのが、矢張り麻川氏は読んで感付き気持ちに含んで居たのだと判った。「私は、自分の美人観はかなりはつきり持って居ますけれどひと様の好悪はどうでも好いんです」私は斯こう云いつて何故か悲しくなつてうつ向いて仕舞った。何なというしつこい氏の神経だ。正午前から、あんなに女中こしやうに言伝ことづて、お駒婆さんに菓子を持たせ、部屋へ話しに来るように私を呼び立てたのは、この事を云う為だつたのか、もうこのくらいつき合えば、この事を云い出しても好いと、見はからつての氏のシヨウタイシヨウタイだつたか……その二三日前もこんな事があつた。私が海岸から扇ヶ谷へ向う道で非常な馬上美人に遇あつ

たと帰って来て氏に話した。すると氏は妙な冷笑を浮べて「非常な美人？ ははあ、あなたに美人の定見がありますか」私「でも、私は美人と思つたのですもの、定見とか何とか問題無しに」麻川氏「その女が馬上に居たんで美人に見えたんでしよう」私にもぐつと来る気持ちが始まりましたが表面は素直に「馬上だからなおスタイルが颯爽としてたんでもありませんがね、私の云うのは顔なんですの、素晴らしく均整のとれてる顔が、馬上でほつと赧らんでいましたの」「ははあ」と麻川氏はどうもイカンで堪らない様子だ。「由来均整のとれてる顔には莫迦が多いですな」

私はむつとして傍を向いた。何故私が扇ヶ谷の道路で観た馬上の女性を麻川氏の前で美人と云つたのは悪いのか。そのくせ、麻川氏自身は殆ど絶えず色々な女性の美醜を評価し続けて居ると云つても好いくらいだのに何故私が
イ 扇ヶ谷の馬上美人を氏の前で褒めては悪いのか。事実私としては白日の下で近來あれ程高貴で美麗な顔立ちを見たことが無いのだ。

麻川氏は私のむつとした顔色を観てとつた。するとたちまち臆病らしくおどおどして茶を汲んで私の前に置いてとつつけたように云つた。「多分素晴らしく美人だったのでしような。その美人は」私はおとなしく笑つちまつた。「ええ、有がとう」私は何が為に有がとうと云つたのだろう。そのくせ胸は口惜しさで一ぱいなのに……。

私はそれから、精々麻川氏にもてなされて氏はやつぱり気の弱い好人物なのだ、と心の一部分では思い乍ら部屋へ帰つた。だが、口惜しさは止らない。従妹達には昼寝の振して背中を向け横になつた。そしてひそかに出て来る涙を抑えた。私も頑愚で人に自分の思うことを曲げられないあつかい難い女かも知れない。しかし、麻川氏の神経はあんまりうるさい。これではまるで、鎌倉へ麻川氏の意地張りの対手に来て居るようなものじゃないか……。

(略)

一しきり昼寝して起きて従妹に羊羹を切らせ、おやつにして居ると、障子の外で、ことん、ことん、廊下を踏む足音がする。「どなた？」と従妹が立つて行く先に障子を細目に開けたのは麻川氏だつた。「やあ、お茶ですか、また来ましょう」私は先刻の事などひと寝入りして忘れて仕舞つたあとなので「いいえおはいり下さい。藤村の羊羹が東京から届きましたの」愛想よく麻川氏に座蒲団をすすめた。氏は片手に紙挟みのようなものを持ってはいって来た。私達のすすめる羊羹を、「うまいですな」と一切

喰べた。そして何か落ちつかない様子で、まじまじ襖や床の間を見て居たが、やがて紙挟みを私の前へ出して「これ御覧になりませんか」私「何ですか」麻川氏「ブツクの間から偶然出て来たんですよ」

私は何気なく氏の手から受け取って見ればそれは一枚のオフセット版で、チントレットの裸婦像だった。艶消しの珠玉のような、なまめかしい崇高美に、私は一眼で魅了されて仕舞った。従妹も伸び上って私の手許の画面に見入った。そして「まあ」と嘆声をもたらした。「ははあ、讚嘆して居られますな」と麻川氏はめつたに談しかけない従妹へ言葉をかけなかなか画面から眼を離さない私達を満足気に見守って居たが、私が画を氏に返すと、氏は待ち受けたように云い出した。「然しですな、僕等がこの大正時代に於て斯うまで讚嘆するこの裸婦の美をですな、我国古代の紳士淑女達——たとえば素盞鳴尊、藤原鎌足、平将門、清少納言、達が果して同等に驚嘆するかですな、或いはナポレオンが、ヘンリー八世が、コロンブスが、クレオパトラが、南洋の土人達がですな、果して、今の我々と同様に評価するかどうかですな……」

氏の言葉を茲まで聞いて私は、氏がチントレットの画像を私の部屋に見せに来た意味がほぼ判った。氏は、先刻私と云い合った美人の評価の結論を氏の思わく通りに片付け度くってチントレットの裸婦像をその材料に使う為め、私の部屋まで出かけて来て、殆どその効果を収め得たのだ。私は胸にぐつとつかえるものが出来て氏の言葉を聞き乍ら氏の手へ返ったオフセット版をじつと見詰めて居た眼を動かさなかつた。氏の敏感はすぐその私に気がついたらしく流石に黙って立ち上った氏の顔を私が視たとき私はたしかに氏の顔に「自己満足の創痕」を見た。私はあの時の氏の「自己満足の創痕」に氏の性格の悲劇性を ウ

(岡本かの子『鶴は病みき』による)

注　　チントレット　　……………　ルネサンス期のイタリヤの画家

問一 傍線部A・B・C・Dと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A ゼツセイ

- ① シンセイな空間
- ② 失敗をハンセイする
- ③ チュウセイを誓う
- ④ ジセイの歌を詠む
- ⑤ ヨセイを楽しむ

1

B トウスイ

- ① マスイからさめる
- ② ジュンスイな少年
- ③ 義務をスイコウする
- ④ ジスイ生活
- ⑤ 体力のスイジャク

2

C ショウタイ

- ① ショウサイを知らせる
- ② 部下をショウアクする
- ③ ショウジュンをあわせる
- ④ 友人をショウカイする
- ⑤ 会員をショウシユウする

3

D イカン

- ① 敵をイアツする
- ② イセキを訪ねる
- ③ イサイを放つ
- ④ 事業をイタクする
- ⑤ イギョウをなしとげる

4

問二 空欄 ・ ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- ① ゆっくりと
- ② 冷然として
- ③ いらいらとして
- ④ にこやかに
- ⑤ おだやかに

- ① 時折り
- ④ 性急に

- ② たまたま
- ⑤ わざわざ

③ 明確に

- ① まざまざ
- ④ 意外にも

- ② 思いがけなく
- ⑤ ようやく

③ 皮肉にも

問三 傍線部（ア）・（イ）の麻川氏の「笑い」についての説明のうち、最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

（ア） |

（イ） |

- ① 心の動揺を隠そうとする笑い
- ③ 相手やその見解を否定する笑い
- ⑤ 雰囲気なごませようとする笑い

- ② 無意識な咄嗟の反応としての笑い
- ④ 相手の言葉の矛盾を批難する笑い

問四 傍線部 (a)・(b) は、いずれも麻川氏の神経についての形容であるが、それぞれを別の言葉で言い換えたものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 「しつこい」

① 的確 てきかく

② 緻密 ちみつ

③ 複雑 ふくざつ

10

(b) 「うるさい」

① 頻繁 ひんぱん

② 物騒 ぶつそう

③ 煩瑣 はんさ

11

④ 強引 ごういん

⑤ 余分 よぶん

問五 傍線部 (一) 「その方が男にとって幸福ですからね」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 男性が理想とする美人像と、実際に出会った女性が一致することが幸福だということ
- ② 美人を発見するよりも、美人に出会うことを想像していることが幸福だということ
- ③ 男性が理想とする美人像に、女性が近づいてくることが、男性を幸福にするということ
- ④ 女性の素顔を見ないままで、理想を投影した女性を見ているのが幸福だということ

問六 傍線部(二)「由来均整のとれてる顔には莫迦が多いですな」という言葉の裏にある麻川氏の真意はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ①表面的な美人は、たいてい内面を豊かにすることを怠りがちであるということ
- ②均整がとれているということだけで美人と判断し評価するのは、浅薄だということ
- ③X夫人は均整のとれている美人だったが、その上人間のにも優れているということ
- ④均整のとれた顔にこだわる「私」に、内面を評価しない非に気づいてほしいということ

問七 傍線部(三)「そして何か落ちつかない様子で」とあるが、なぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

14

- ①相手がなかなか自説を曲げないので、いつまでも紳士的に対応できなくなったから
- ②何度説明しても相手が自説を理解しないので、相手をなじる気持ちが生じたから
- ③余計なことをするよりも、少しでも早く共通の話題に入りたいとあせっているから
- ④お茶をのむことではなく、自分の美人観を相手に納得させることが目的だから

問八 傍線部(四)「麻川氏はめったに談しはなかけない従妹へ言葉をかけ」たのは、なぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

15

- ① 今日は何とか従妹を自分の味方につけたいと意図していたから
- ② 従妹の反応も自説の証明として追加しようと思図していたから
- ③ そろそろ従妹にも親しく話しかけておかないと失礼にあたるから
- ④ 従妹は「私」と違って自説を支持してくれると自信を持てたから

問九 傍線部(五)「然しですな、……今の我々と同価に評価するかどうかですな……」と言うことによつて、麻川氏はどういうことを言おうとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

16

- ① 永久不変の美人の条件などというものは、元々あるはずがないのだということ
- ② 歴史上の人物たちに、今さら美人の評価を確かめることはできないということ
- ③ 氏が例に挙げた美人観は、何通りかあつて、決して同じではなかったということ
- ④ 我々の評価は、歴史上の評価から自由になされることはありえないということ

問十 傍線部(六)「自己満足の創痕」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 自他を傷つけても、己の主張の正しさを証明することが痛々しいということ
- ② たとえ相手を傷つけても、自己主張さえ認められれば満足だったということ
- ③ 内容の正しさに関係なく、自己主張だけを目的にした結果は悲惨だということ
- ④ 自分では満足できる結果でも、相手を傷つけては意味がないということ

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ほんとうの自分」に出会うためのハウ・ツー本に群がる人たちがいる。その気持ちは僕もよくわかる。

だが、この手の本を中毒症状のように読みあさる人たちがいるということは、そんなハウ・ツーを仕込んだところで「ほんとうの自分」などというものにはなかなか手が届かないことの証明となつてはいないか。そもそも「ほんとうの自分」という言い方には、どこかいがわしさが漂っている。

今の自分の生活に満足できない、なんか充実感がない、もっと生きているといった実感がほしい。そうした思いは多くの人が抱えているものだ。そう思うのなら、まずは動いてみるのだ、などとよく言われる。もちろん、そこで充実に向けて一歩踏み出すことができればよいのだが、人間というのはどうも^Aダセイに流される。生活を変えろというのは、非常に大きなエネルギーを要することなのだ。

だいいち、どう変えたら自分の日々の生活に張りが出てくるのかわからない。それに、試しに何かを試してみたからといって、いきなり充実し始めるなどということは、めつたにない。生活の充実というものは、そんな手軽に手に入れられるものではない。充実にたどり着くまでには、地道な努力の積み重ねを必要とするのがふつうだ。そこに根気が必要とされる。だが、自分にあつたものかどうかわからないのに、地道な努力を積み重ねていく気力はなかなか湧かない。

どうもパツとしない。このままでは自分の人生という感じがしない。そうかといって、どう動いたらよいのかわからない。そんな混乱と不安の中にある人にとって、「どこかにほんとうの自分があるはず」a「a」と思うことは、ある種の救いとなる。

今はとりあえず納得のいかない日々を送ってはいれるものの、これはほんとうの自分のあり方ではない、自分はこんなものではない、いつかもつと自分らしい生活に出会えるはず。今の自分にふと物足りなさや疑問を感じるときに、そのように考えることで、現実トウヒ^B的な安らぎが得られる。「b」とアンイ^Cな姿勢に安住し続けるときの口実に使える。

ダセイに流される自分、意欲の乏しい自分、意志の弱い自分、取り立てて誇れる能力のない自分、情けない自分、思い通りにならない自分、持てあまし気味の自分。こういったものは、どれもほんとうの自分ではないのだ。そう思い込むことで、気持ちが軽くなる。何かが変わるわけではないけれど、束の間（甲）つかの安らぎが得られる。

このように、どこかに「ほんとうの自分」があるはずといった自分さがしの物語は、充実した生活を組み立てるのが難しい多くの人たちにとって、ひとつの救済装置として機能しているわけだ。けれども、こういった自分さがしの物語に安住しているかぎり、自分らしい生活や充実した日々を手に入れることはできない。やはり、今ここで動き出さなにかぎり、何も変わっていない。

このままだ流れに身を任せているだけで、いつか突然「ほんとうの自分」にめぐり会える。そんな妖（三）あやしげな魅力を放つ物語から抜け出して、今ここで自分づくりのための動きを起こすことが大切なのだ。

いつか「ほんとうの自分」にめぐり会えるはず。だから、今のところは何か物足りないけど、まあいいか。そんな感じでごまかしては、自分の中に何ら建設的な変化を期待することはできない。けれども、現実トウヒ的な安らぎが得られるということはある。その意味では、ある種の救いになっているわけだ。

ア、このところそうしたゲンソウがもちにくくなっているということがないだろうか。「ほんとうの自分」が「どこにあるはず」といった希望的観測よりも、「自分がどこにもない」**ｃ**「と絶望的な思いにとらわれ、悲壮感や焦りを生じるような時代の空気が強まっているような気がする。

今生きている自分よりもっとすばらしい「ほんとうの自分」が **d**、「いつかめぐり会えるはず」のように希望がもてれば、現実にはさえない生活を送っており、情けない自分に直面せざるを得なくても、何とか凌（し）いでいくこともできるだろう。だが、そうした希望がもてないとき、今現に生きている空虚な生活、そうした日常に埋もれているさえない自分がすべてということになる。いつかそこから抜け出して自分が輝き出すときがきつとくる。そういった希望的観測が成り立たない。

そんな心理状況の中、自分の中のショウドウが露出しやすくなる。キレルというのも、そうした **イ** によるところが

大きいのではないか。自分が空虚だとか、空白だとか、空っぽだとかいったセリフも目立つが、こうした感覚も、どこかにもっと充実した「ほんとうの自分」があつて、いつかこの虚しい生活から抜け出すことができるといった希望がもてれば、適当にやり過ぎすこともできるだろう。しかし、そのような希望がもてないとき、自暴自棄な行動につながりやすい。

(榎本博明『ほんとうの自分』のつくり方』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ダ|セイ

- ① 敵にダ|キョウする
- ② 生活がダ|ラクする
- ③ ダ|ミンをむさぼる
- ④ ダ|メを押す
- ⑤ 悪習をダ|ハする

18

B トウ|ヒ

- ① ゴク|ヒの内容
- ② 部下をヒ|メンする
- ③ ヒ|ボンな才能
- ④ 山へヒ|シヨに出かける
- ⑤ ジ|ヒの心

19

C アン|イ

- ① イ|サイ承知する
- ② カン|イ書留
- ③ ジン|イ的な事故
- ④ イ|ク同音
- ⑤ イ|シン伝心

20

D ゲン|ソウ

- ① 上司にゲン|メツする
- ② ゲン|マイを食べる
- ③ 夢がジツ|ゲンする
- ④ ゲン|シユクな雰囲気
- ⑤ カン|ゲンにつられる

21

E ショウ|ドウ

- ① 外国とコウ|ショウする
- ② 瀬戸物ハツ|ショウの地
- ③ 友をアイ|ショウで呼ぶ
- ④ 意見がショウ|ウトツする
- ⑤ ショウ|ウガイ物競走

22

問二 空欄 ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①また

②やはり

③しかし

④もちろん

①閉塞感へいそく

②危機感

③不信心

④満足感

問三 空欄 ・ ・ ・ の中には、次のA・B・C・Dのセリフのうちのどれかがそれ

ぞれ入る。セリフの組み合わせとして最も適当なものを、後ろの①～④の中から一つ選べ。

A 自分がどうにも見つからない

B いつかほんとうの自分にきつと出会えるはず

C どこかにあるはず

D ま、とりあえず今は、これでいいか

—

—

—

④	③	②	①
D	C	B	A
C	A	D	B
A	B	A	D
B	D	C	C

問四 傍線部(甲)「束の間の安らぎ」、(乙)「自暴自棄な行動」の本文中の意味として、最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

(甲) 束の間の安らぎ

①ほとんどない程度の安らぎ

②かなり長い安らぎ

26

③わずかな時間の安らぎ

④永遠に近い安らぎ

(乙) 自暴自棄な行動

①憎しみにみちて、他人を傷つけてしまう行動

27

②絶望のあまり、無気力で何もしない状態

③希望を失い、思い切った賭けに出るような行動

④やけくそのあまり、自分の身を粗末に扱う行動

問五 傍線部(一)「そもそも『ほんとうの自分』という言い方には、どこかいがわしさが漂っている」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選ぶ。

28

①本来「ほんとうの自分」と「ほんとうでない自分」との境目がはっきりしているものではないから

②自分について「ほんとう」とか「ほんとうでない」とかいうような言い方をするのは無意味だから

③ふつうの人間にとって、しよせん「ほんとうの自分」には手が届かないことがわかっていてから

④ハウ・ツー本に群がるような人は、すでに「ほんとうの自分」を探す必要がないと言えるから

問六 傍線部（二）「ひとつの救済装置として機能している」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ① 自分さがしの物語は、自分にまだ眠っている潜在的な力があることを証明してくれるから
- ② 自分さがしの物語によって、意欲の乏しい自分、意志の弱い自分を違う自分にすることができるから
- ③ 自分さがしの物語を夢見ることによって、うまくいかない現実から目を背けることができるから
- ④ 自分さがしの物語は、根気のない人に対して地道な努力の積み重ねができるよう促してくれるから

問七 傍線部（三）「妖しげな魅力を放つ物語」の説明として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ① 自分で努力していないつもりでも、知らず知らずのうちに努力しているという魅力的な話
- ② 努力さえしていれば、いつか突然「ほんとうの自分」が見えてくるものだという不思議な話
- ③ 本来「ほんとうの自分」はないのだから、流れに身をまかせておけばいいという都合のよい話
- ④ 自分から何も動かないでじっとしていても、ある時、急にうまく行くという魅惑的な話

問八 傍線部(四)「その意味では、ある種の救いになっている」の説明として、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

31

- ① 時間的なモラトリアムを与えられているに過ぎないのだが、今このひとときは気分的に救われている。
- ② 未来には希望が持てない状況だが、現実を忘れて生きられるという点で、一種の救いといえる。
- ③ 自分がどこにもないという絶望感があるにもかかわらず、未来への希望によって救いを得ている。
- ④ 未来の「ほんとうの自分」に向かって、着実に努力していくことができる自分が見つかり救われている。

問九 本文の内容と一致しないものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

32

- ① 現在の自分はさておき、将来なんとかなるかもしれないという根拠のない希望を頼りに日々を過ごす人がいる。
- ② 「ほんとうの自分」に近づくための努力が無駄になったとき、人は絶望のあまりキレてしまうものだ。
- ③ 人はダセイに流されやすく、自分を充実させるための一歩がなかなか踏み出せないものだ。
- ④ 自分を変えるために何か努力したとしても、すぐに結果が得られるとは限らないものだ。